



旧陸軍施設における兵舎・皇族舎・皇族の住居に関する研究

K00059 須田 好美

I はじめに

I-1 研究目的

明治の開幕とともに、西洋文明の移入によって、あらゆる文化の形態が急速に近代化されていった。そのなかで、洋式兵制を採り入れた日本の軍隊は、文明開化の推進力となり、日本の近代秩序を浸透させる役割を果たした。現在、近代の歴史的建造物が脚光を浴びてきているが、陸軍自衛隊駐屯地内に存在する歴史的建造物の実態は明らかになっていない。

本研究では、旧陸軍施設のうち住居要素をもつ建造物を対象とし、復元的考察を行う。さらに当研究室で行われている他の旧陸軍施設の建造物を加えて、建築構成と特徴を明らかにすることを目的とする。

I-2 研究方法

- ① 旧陸軍施設のうち対象建造物の実測調査を行う。なお防衛庁所管による建築コンサルタントの実測調査が平成 14 年度に行われているが、復元的考察がなされておらず、痕跡調査と復原考察に力を入れる。

表 1 調査対象建造物

	皇族舎	白壁兵舎	北白川宮成久王住居
所在地	東京都練馬区 大泉学園町	新潟県 新発田大手町	大阪府 和泉市柏太町
建設年代	昭和時代	明治 7(1874)年	大正 8(1919)年
調査実施日	H15 10/31	H15 11/14	H15 12/8

- ② それぞれの建造物の復原を行う。なお皇族舎は移築により痕跡や資料の情報が不足しているため、移築前の復原考察を行う。
- ③ 調査した兵舎、皇族舎、北白川宮成久王の住居において、対象とする住み手や使用目的からの当初計画の違いを明らかにする。
- ④ 調査した 3 棟および当研究室で行われている師団司令部、偕行舎、将校集会所、旧軍部武徳殿の計 7 棟の仕様表を作成し、旧陸軍施設の建築構成とその特徴を明らかにする。

II 旧陸軍士官学校皇族舎について

II-1 本建造物の概要

- ・名称 旧 陸軍士官学校皇族舎

現 陸軍自衛隊朝霞駐屯地 振武台記念館

- ・所在地 旧 神奈川県座間町

旧陸軍士官学校内

現 東京都練馬区大泉学園町

陸上自衛隊朝霞駐屯地内



写真 1 外観

旧陸軍士官学校に軍籍のある皇族の居住用として座間の陸軍士官学校敷地内に建てられた。建設時期については、遅くとも第 54 期生が入学する昭和 13 年には建設されたと推定されるが、詳細な時期は不明である。

皇族男子が軍籍に入り将校教育を受けることは明治時代に定められたもので、教育は他の学生と同じに受けたが、宿舎は特別に設置された。本建造物は神奈川県座間市にある当時の在日陸軍司令部から「陸軍士官学校本科当時の皇族舎（東久邇彰常王 54 期、賀陽宮邦壽王 55 期が使用）を取壊したい。」との連絡が入り、その皇族舎を昭和 53 (1978) 年に朝霞駐屯地に移築し、現在は『振武台記念館』として使用されている。

II-2 陸軍士官学校の歴史

表 2 陸軍士官学校年表

年代	
明治元年	京都に兵学校設置。
明治 2 年	大阪へ移転。兵学寮となる。
明治 2 年 12 月	生徒入学、青年学舎となる。
明治 3 年 5 月	横浜語学所合併幼年学舎。
明治 4 年 10 月	兵学寮、東京に移転。
明治 7 年 10 月	「陸軍士官学校条例」設定。
明治 7 年 12 月	市ヶ谷に兵学寮から移転。
大正 9 年	陸軍中央幼年学校本科が陸軍士官学校予科、陸軍士官学校が陸軍士官学校本科となる。
昭和 12 年 9 月	陸軍士官学校本科、座間移転。 陸軍士官学校予科は陸軍予科士官学校と市ヶ谷に残留。
昭和 16 年 9 月	陸軍予科士官学校、朝霞移転。

II-3 建築構成

現在東を向いている彰常王、邦壽王の居室は移築前の配置図によると、南を向いていた。つまり彰常王、邦壽王の居室が日当たりの良い南側に設けられたということがわかった。また移築前の写真より当時の南面の窓は

6 つであったのに対し、現在は 4 つに変更されている。建築意匠では階段柱、腰壁笠木、外部窓格子、天井廻り縁等に面取が施されているなど細部まで丁寧に仕上げられている。当時の社会事情においてさえ、材料も贅沢に使用されており、皇族の権力を窺うことができる。

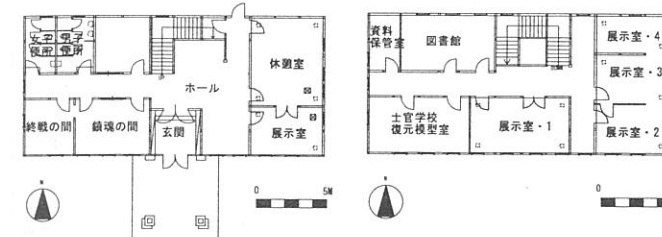


図 1 現状平面図 1 階

図 2 現状平面図 2 階

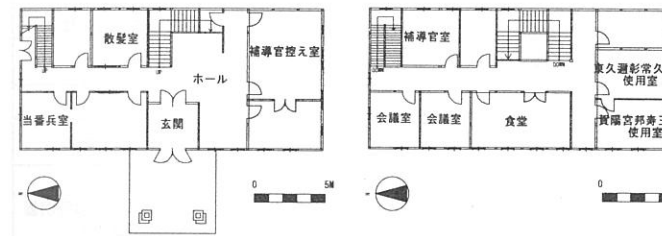


図 3 移築前復原平面図 1 階

図 4 移築前復原平面図 2 階

III 旧東京鎮台第 8 番大隊新発田分屯営兵舎について

III-1 本建造物の概要

- ・名称 旧東京鎮台第 8 番大隊新発田分屯営兵舎
(通称 「白壁兵舎」)

- ・所在地 新潟県新発田市大手町

陸上自衛隊新発田駐屯地内

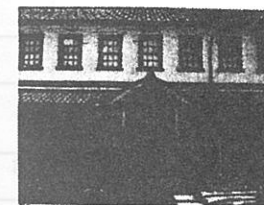


写真 2 外観

旧陸軍東京鎮台分屯営兵第 8 番大隊の兵舎として明治 7 (1874) 年に建設された。その際、順次破却されていった新発田城郭の廃材を使用したといわれている。明治 7 年の建設当時、陸軍の教範類がフランス式であったことから、本建造物もフランス風様式が採用されたが、他方では和風城郭建築技術の名残も留めた純白な漆喰塗りのモダン建築である。なお、新発田市内に現存する洋風建築では最古のものとされる。内部は現在、史料館や倉庫などとして使用されている。

III-2 建築構成

出入り口には起(むくり)破風付切妻棧瓦葺のポーチを突出させている。正面には積雪時にも移動が容易にできるように雁木が採用されている。南側の隅部には、コ

ーナーストーンを模し、白漆喰塗りで仕上げている。内部の天井廻り縁などから当初の痕跡を見ることができ、二つの大空間であったことがわかった。また北西部分には中央通路を中心としてシンメトリになるように部屋が続いていたと推定される。(図 9,10) 類似の建造物である仙台市歴史民俗史料館(旧仙台第四聯隊兵舎)の資料によると大空間に設けられた仕切りは、腰部分に板があり、その上の壁のない部分に銃が立てられていた。この入口には扉はなく、また銃架部分にも隙間があり室内は開放的であったと推定される。当初の小屋組は擬似トラスであったことがわかり、明治 7 年頃は洋風建築の技術が未熟であった時代と考えられ、トラスの発展段階を示しているといえる。

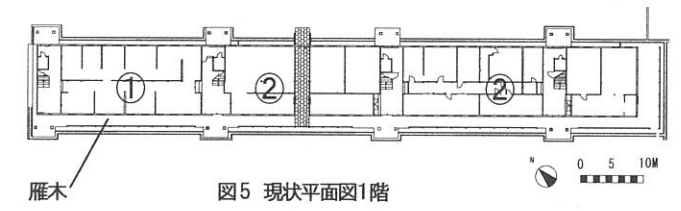


図 5 現状平面図 1 階

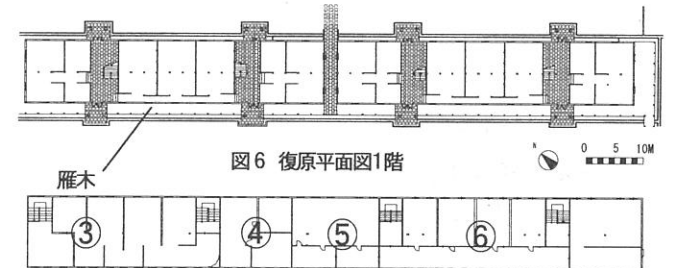


図 6 復原平面図 1 階



図 7 現状平面図 2 階



図 8 復原平面図 2 階



図 9 現状西立面図



図 10 復原西立面図

- ① 1 階史料館 ② 倉庫 ③ 2 階史料館
- ④ 倉庫 ⑤ 音楽クラブ ⑥ 資材庫
- *①～⑥は図 5～8 に対応。

IV 北白川宮成久王住居について

IV-1 本建造物の概要

・名称 旧 北白川宮成久王住居

現 修史館・幹部集会所

・所在地 大阪府和泉市伯太町

陸上自衛隊信太山駐屯地内

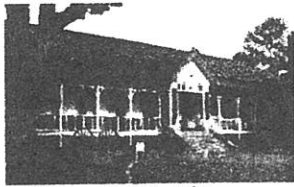


写真3 外観

での勤務で、当聯隊での勤務は約一年間であり、その間の僅かな期間中、仮住居的に使用されていた。現在は修史館・幹部集会所として使用されている。

IV-2 北白川宮成久王について

第3代目である成久王は、明治22年に誕生した。28年宮家を相続し、42年に明治天皇の第7皇女房子内親王と結婚した。陸軍士官学校、陸軍大学校を卒業し、陸軍砲兵大佐となり、大正6年には大勲位（菊花大綬章）に叙される。しかし、12年、パリ視察中に自動車事故のため37歳で逝去した。

IV-3 建築構成

エントランスを中心として両翼部をもったシンメトリとなっている。所々に建具の痕跡や窓や扉が埋められた痕跡が確認できた。また当初、執務室や休憩室であったと推定される部屋の天井には、シャンデリアのような照明器具がつけられており、吊元の天井に装飾が型取られていた。当初と現状の構成の変化がみられないので、エントランスに対して西側部分は私的空間として、東部分は公共的空間として使用されていたと推定される。

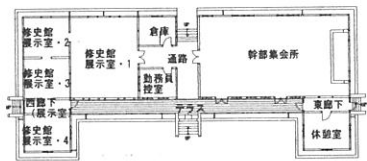


図11 現状平面図

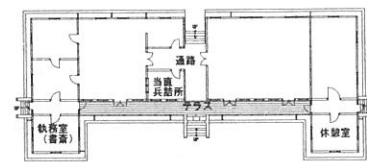
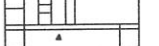


図12 復原平面図

V 旧陸軍施設建築構成

県名		新潟	大阪
現在所属		陸上自衛隊新発田駐屯地（白壁兵舎）	陸上自衛隊信太山駐屯地（修史館・幹部集会所）
当初所属		旧陸軍東京鎮台分屯営兵第8番大隊（兵舎）	旧野砲兵第4聯隊（北白川宮成久王住居）
建設年代		明治7（1874）年	大正8（1919）年
現在所在地		新発田大手町	和泉市伯太町
当初所在地		新発田大手町	和泉市伯太町
当初用途		兵舎	北白川宮成久王住居
平面形状 （部屋構成は現状）		 細長方形	 両翼形
屋根（葺状・形状）	現状	寄棟造・桧瓦葺／北側：切妻造 小屋組・トラス構造	寄棟造・桧瓦葺／エントランス：切妻造一文字葺 小屋組・トラス構造
	復原	寄棟造・桧瓦葺（古写真、絵図による） 小屋組・トラス構造	寄棟造・桧瓦葺／エントランス：切妻造スレート葺（古写真による） 小屋組・トラス構造
外壁	現状	白漆喰塗仕上／下見板張り	モルタルリシン吹き付け仕上
	復原	白漆喰塗仕上（古写真、絵図による）	羽目板張り
基礎部	現状	切石積	レンガ積み・イギリス式
	復原	切石積（古写真、絵図による）	レンガ積み・イギリス式
柱基礎部		東石	ベランダ部分：東石
天井仕上	現状	杉板仕上り天井、化粧合板、プリント合板張り	折上げ天井、漆喰塗（一部照明器具部分に装飾有）
	復原	杉板仕上り天井	折上げ天井、漆喰塗（一部照明器具部分に装飾有）
天井廻縁	現状	蛇腹付廻り縁、面取なし	二重廻り縁：フィリット・トラス型
	復原	蛇腹付廻り縁	二重廻り縁：フィリット・トラス型
床材	現状	ラワン合板板張り、杉板突付け張り	緑甲板張り
	復原	不明	緑甲板張り
床仕上	現状	モルタル仕上、Pタイル、塩ビシート	塩ビタイル、モルタル仕上、カーペット張り、緑甲板張り
	復原	不明	緑甲板張り
室内壁仕上・腰壁	現状	杉板縦羽目板張り、ラワン合板張り、プリント合板張り	腰壁：羽目板張り、腰壁上部：漆喰塗、吹き付けタイル
	復原	不明	腰壁：羽目板張り
扉	現状	木製引き違い戸・開き戸（一部アルミ製）	木製片・両開き戸
	復原	木製開き戸（古写真、絵図による）	木製片・両開き戸
開口部装置（窓）	現状	木製化粧額縁付上げ下げ窓（一部アルミサッシ）、引き違い窓	木製化粧額縁付引き違い窓
	復原	木製化粧額縁付上げ下げ窓（古写真、絵図による）	木製化粧額縁付上げ下げ窓（痕跡による）
巾木	現状	—	銀杏面取
	復原	—	銀杏面取

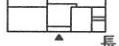
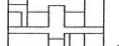
VI 結論

旧陸軍施設の建築構成の要素として以下のことが確認することができた。

- ①屋根形状が寄棟造・瓦葺なものが多い。小屋組はトラス構造を採用している。
- ②平面形状はシンメトリである。
- ③建具の木枠や天井の廻り縁にモールディングが施されている。
- ④旧第11師団司令部の天井廻り縁部分には換気口が一定間隔に配置されており、床は雇い実矧ぎの板張りで、

表3 旧陸軍施設仕上げ表

(*)A、B欄は図1～4の  に対応

東京	山口	香川	石川	香川
陸上自衛隊朝霞駐屯地（振武台記念館）	陸上自衛隊山口駐屯地（防長尚武館）	陸上自衛隊香川駐屯地（第二混成団本部）	陸上自衛隊金沢駐屯地（尚古館）	普通寺（市立郷土館）
旧陸軍士官学校（皇族舎）	旧陸軍歩兵第42聯隊（武徳殿）	旧第11師団司令部	旧第9師団（将校集会所）	旧第11師団（借行舎）
昭和時代	明治30（1897）年	明治31（1898）年	明治31（1898）年	明治36（1903）年
練馬区大泉学園町	山口市大字上宇部町	普通寺市	金沢市出羽町	普通寺市
神奈川県東海間町	山口市大字上宇部町	普通寺市	金沢市出羽町	普通寺市
旧陸軍士官学校皇族舎	旧軍部武徳殿	師団司令部庁舎	将校集会所	借行舎
 長方形	 長方形	 巾字形	 長方形	 凸形
A (*)	B (*)			
寄棟造・瓦葺 小屋組・トラス構造	入母屋造・瓦葺 小屋組・トラス構造	寄棟造・桧瓦葺 小屋組・トラス構造	寄棟造・桧瓦葺 小屋組・トラス構造	寄棟造・桧瓦葺 小屋組・トラス構造
寄棟造・瓦葺（古写真による） 小屋組・トラス構造	入母屋造・瓦葺 小屋組・トラス構造	寄棟造・桧瓦葺 小屋組・トラス構造	寄棟造・桧瓦葺 小屋組・トラス構造	寄棟造・桧瓦葺 小屋組・トラス構造
下見板張り	モルタル仕上	アクリルエマルジョン吹き付け	モルタル仕上	アクリルエマルジョン吹き付け
下見板張り（古写真による）	漆喰塗	漆喰塗	漆喰塗	漆喰塗
コンクリート布基礎	コンクリート布基礎	レンガ積・オランダ式	レンガ積・オランダ式	レンガ積・オランダ式
コンクリート布基礎（古写真による）	不明	レンガ積・オランダ式	レンガ積・オランダ式	レンガ積・オランダ式
コンクリート東石	コンクリート東石	東石	不明	東石
格天井	岩綿吸音板	船底天井	合成樹脂エマルジョン塗（一部照明器具の吊元部分に装飾有）	竿天井
格天井	不明	船底天井	漆喰塗（一部照明器具の吊元部分に装飾有）	漆喰塗
切り入り面	トラス型	カヴェート型	二重廻り縁：サイマリヴァーサ・フィリット（廻り縁部分に換気口有）	フィリット・トラス型
切り入り面	トラス型	カヴェート型	二重廻り縁：サイマリヴァーサ・フィリット（廻り縁部分に換気口有）	フィリット・トラス型
緑甲板張り	Pタイル張り	板張り	板張り（雇い実矧ぎ）	地松板相ジャクリ張り
緑甲板張り	不明	板張り	松板張り（雇い実矧ぎ）	地松板相ジャクリ張り
緑甲板張り	Pタイル張り	赤絨毯	絨毯敷き	絨毯敷き
緑甲板張り	不明	板張り	松板張り	板張り
腰長押・縦材：銀杏面取、腰壁：羽目板張り、腰壁上部：ベニヤ下地ビニル紙仕上	腰長押：面取なし、腰壁上部：ベニヤ下地ビニル紙仕上	腰長押：面取なし、腰壁：羽目板張り	合成樹脂エマルジョン塗	腰壁：羽目板張り、腰壁上部：酢酸エマルジョン塗
腰長押・縦材：銀杏面取、腰壁：羽目板張り	腰長押：面取なし	腰長押：面取なし、腰壁：羽目板張り	漆喰塗	腰壁：羽目板張り、腰壁上部：漆喰塗
木製片・両開き戸	木製両・片開き戸	木製両・片開き戸	木製片・両開き戸	木製片・両開き戸
木製片・両開き戸（一部引き戸）	木製両開き戸	木製両・片開き戸	木製片・開き戸	木製片・両開き戸
木製化粧額縁付上げ下げ窓（木枠：銀杏面取）	木製化粧額縁付上げ下げ窓	木製化粧額縁付上げ下げ窓（木枠：割り形）、引き違い窓	木製化粧額縁付上げ下げ窓（一部アルミサッシ）	木製化粧額縁付上げ下げ窓（木枠：割り形）
木製化粧額縁付上げ下げ窓（木枠：銀杏面取）	木製化粧額縁付上げ下げ窓	木製化粧額縁付上げ下げ窓（木枠：割り形）	木製化粧額縁付上げ下げ窓	木製化粧額縁付上げ下げ窓（木枠：割り形）
銀杏面取	切り入り面取	—	銀杏面取	面取なし
銀杏面取	切り入り面取	—	銀杏面取	不明

上等な仕上げをしている。

旧陸軍施設の建造物は西洋の様式を採り入れつつ、日本の様式も所々に見られた。当時の古写真や駐屯地内に現存する旧陸軍の施設群は、ほとんど統一されたデザインであったと考えられる。軍人勅諭の影響が大きく「軍人は質素であるべし」とのコンセプトを忠実に守り、外観は無駄な装飾がなく、シンプルである。内装においては、細かい部分まで配慮された仕上げをしている。

旧陸軍の軍制で定められた階級制度が建築にも影響を

及ぼしたと考えられ、使用目的や使用する人物の階級に応えた建築構成と推定される。

参考文献

- ・朝霞概説建物現況調査検討報告書 2002年度
- ・新発田概説建物現況調査報告書 2002年度
- ・信太山概説建物現況調査報告書 2002年度
- ・吉田裕 著「日本の軍隊—兵士たちの近代史—」岩波新書 2002年
- ・岡田悟 著「歩兵第四連隊の兵舎—その歴史と保存—」
仙台市歴史民族史料館調査設計の記録 1981年